

会 議 録

会議 名	令和6年度第1回小金井市市民協働推進委員会
事務局	市民部 コミュニティ文化課
開催日 時	令和6年8月27日（火） 18時30分～19時30分
開催場 所	前原暫定集会施設 A会議室
出席委 員	田中敬文 委員長 邦永洋子 副委員長 森田眞希 委員 高山和久 委員 西田 剛 委員
欠席委 員	な し
事務局 員	1 小金井市 コミュニティ文化課長 中川法子 コミュニティ文化課文化推進係長 津端友佳理 コミュニティ文化課文化推進係主任 武田麗子 コミュニティ文化課文化推進係主事 佐原涼太 コミュニティ文化課 2 小金井市市民協働支援センター準備室 北脇 市民協働推進員 明石 市民協働推進員

傍聴の可否	一部不可		
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由	一部不可 (協働事業提案制度に関する議題のため)	傍聴者数	0人
会議次第	(1) 委員長・副委員長の互選 (2) 委員会運営について (3) 令和5年度小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況について (4) 令和5年度及び令和6年度実施協働事業提案制度の進捗状況について (5) 協働事業提案制度の改正について (6) 今年度の委員会開催について (7) その他		
会議結果	別紙のとおり		
会議要旨	別紙のとおり		
提出資料	(1) 令和5年度小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況 (2) 令和5年度実施協働事業提案制度 (3) 令和6年度実施協働事業提案制度		

	(4) 芝居屋樂屋チラシ (5) 令和6年度小金井市提案型協働事業に係る条件付採択結果について (6) 制度概要について (7) 小金井市協働事業提案制度実施要綱
--	---

【事務局】 皆様、こんばんは。涼しくなってきましたか。

本日、令和6年度の第1回小金井市市民協働推進委員会、第1回目となりますので、委員長が選出されるまでの間、事務局にて進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

開会に先立ちまして、委任状の交付を行いたいと思うのですが、本来であれば市長の白井より、委任状の交付と御挨拶を行う予定であったのですが、本日公務のため出席できないということです。申し訳ございませんが、皆様の席上にあらかじめ配付させていただきます。

本日の配付資料の確認をさせていただきたいと思います。

配布資料が、ちょっと数が多いのですが、資料1が「令和5年度の小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況」。

資料2が「令和5年度実施協働事業提案制度」。

資料3が「令和6年度実施協働事業提案制度」。

資料4が「芝居屋樂屋チラシ」。

資料5が「令和6年度小金井市提案型協働事業に係る条件付採択結果について」。

資料6が「制度概要について」。

資料7が「小金井市協働事業提案制度実施要綱」。

そのほか、チラシが2種類入っております。

以上9点になりますが、お手元にない方、不足等ございましたら、ありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日初めての方もいらっしゃいますので、最初にお互いの自己紹介で始めたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、高山委員から、このような形で回していただけたらと思います。お願いいたします。

【高山委員】 持ち時間はどのぐらいにします？

【事務局】 どのくらい、好きなだけ。

【高山委員】 好きなだけ。

東京ボランティア・市民活動センターの高山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

熊谷がいろいろとお世話になったようで、どうもありがとうございます。挨拶があったのかな、かどうか分かりませんが、彼はボランティアセンターに、今の統括になってから12年ぐらいいたと思うんですけども、今回は管理職に昇任して、うちの社会福祉協議会の研修室の室長という形で転出しております。場所としては茗荷谷になっていて、今、私たちは飯田橋におりますけれども、ふだんは、しょっちゅう来るんですけどもね。そんな感じで、本当にいろいろとお世話になったかなと思います。

私自身は、今のボランティアセンターの副所長になりまして、4年目になるかなと思いますけれども、その前に、震災の年が最後の年だったかなと思いますが、ボランティアセンターにやはり10年ほどおりまして、その頃に森田さんともお会いしたんですけれども、ちょうど小金井の、ボランティアセンターの委員会でいいのかな、ということで、準備室ができた頃だったかと思いますが、今はもうなくなったのだと思いますが、福祉センターの2階とか3階とかの会議室で、運営委員会をしょっちゅうやっていたかなというような思い出があります。駅の周辺も立体になったりとかして、随分変わったかなと思うし、ちょうどそれがきれいになったばかりぐらいのときだったんですけれども、大分いろんなものができてきたというか、そろって、落ち着いてきた感じがするなというふうに思っています。

小金井市さんだけでなく、私は東京全域がエリアなので、今一番西に行っているのは、私は青梅まで行っているんですけれども、東は足立というような感じで、どこでも行っているんで、そんなにここに来ることは難しいことではないんですが、ぜひ皆さんともいろんな議論をさせていただければと思います。ぜひよろしくお願いいたします。

【邦永委員】 NPO法人連絡会から来ております、NPOこがねい子ども遊パーク、プレーパークや野外保育、こどものまちなど、子供と保護者の皆さんたちが生き生きとできるような居場所づくりを進めているところの代表の邦永です。つい最近まで、外に1週間いまして、暑さって慣れるものだなど、元気になってまいりました。よろしく願いいたします。

【事務局】 田中委員、お願いいたします。

【田中委員】 初めまして、田中敬文と申します。東京学芸大学を退職しました。専門は経済学です。その経済学の分析対象の一つとして、NPOをずっと関心を持っておりまして、すいません、西暦でお話ししますが、98年のNPO法制定とか、その後の会計基準の策定とか、いろいろとお手伝いさせていただきました。

一番古いのはNPO法制定の前ですが、阪神・淡路大震災が起きた後、官庁で、当時は内閣府の経済企画庁と言いましたが、経済企画庁と会議室で、各省の次官とか、おいでになったときに、こういった市民活動を推進する法律が必要だということをお話しをしたことがあります。そのときにみんなすごく真剣に聞いてくださって、やっぱり今後はこういったものが必要だということを、皆さん理解していただいたなというふうに思っています。

その後、いろいろいきさつあって、名前としてはちょっと複雑な、特定非営利活動促進法というふうになりましたが、そういう法律ができたことによって、こういったNPOの活動が認知されて、ちゃんと法人格を取れるようになり、その後、税制上の優遇措置もいろいろと進んできましたので、形式的には世界に誇れる形のものができたかなというふうに思っています。

官庁関係では、ですから経済企画庁、内閣府でNPOの推計とか、そういうことをいろいろやらせていただきました。その後は自治体、例えばこの近辺ですと神奈川県で、指定NPOの審査をずっと、10年ぐらい携わらせていただきました。市でいきますと、武蔵村山というところで、やはり同じような、こういう会議がありまして、お互い

にいろいろ、私自身も見聞きしているものですから、いいところは両方取って、何とかこういった形のものをしてもらって、それを上手に審査をして活動を広げていくようなことを、いろいろと考えていきたいなというふうに思っております。

直接私自身はNPOの経営には関わっておりませんが、大学で学生たちにNPOを教えることをやっています。ですから、今は年取ったこともあって、NPOの伝道者として、いろんな大学で、NPOってこういう、楽しいんだよ、いいことあるんだよということを、ずっとお話をしています。その関係で『はじめてのNPO論』、2017年に出版したんですが、今、いろいろその後、情報変わっていますので、改訂を進めていまして、今年度末か来年初めには新しいバージョンを刊行したいなというところです。どうぞよろしくお願いいたします。

【森田委員】 ごぶさたしております。当初会った頃はお互い髪真っ黒だったのに、白くなったなど、今お互いに思っているところだろうなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

相変わらずNPO法人、地域の寄り合い所 また明日を運営しておりまして、今もまた、明日という枠をいろいろ超えて、いろんな業種の人とかと関わり合いながら、様々な、お金にならないことばかりに手を出してやっております。どうぞよろしくお願いいたします。

【西田委員】 市民部長の西田です。よろしくお願いいたします。

考えてみると、私もこの市民部に来る前は生涯学習部というところで、生涯学習関係の仕事を、何年だかな、6年ほどやっていたのかな。それで、終わりました、市民部に

移ってきて6年たちました。本当に歴だけは長いんですけれども、まだ全然知識も経験も乏しくて、教わることばかりなんですけれども、小金井市も今、さっき高山委員がおっしゃったんですけれども、市役所の新庁舎がいよいよできることになりまして、令和10年の完成を目指して、紆余曲折があったんですけれども、そのことに向かって進んでございます。

それから、南口のタワーマンションの、建っているのですけれども、北口にも125メートルの、ここら辺では一番高い建物になると思われるタワーマンションが1棟建てられる予定で、都市計画決定が今年度中ということで、説明会もやられました。そうすることで、小金井市も10年前、20年前と比べると全然、今のお話にあったんですけれども、ボランティアのセンターが造られる当時と比べて、本当にさま変わりしているので、行政もさま変わりしなきゃいけないなと思っているこの頃です。よろしくお願いします。

【事務局】 ありがとうございます。

次に事務局を紹介させていただきます。

コミュニティ文化課長の中川と申します。よろしくお願いいたします。

【事務局】 津端です。よろしくお願いします。

【事務局】 市民協働支援センター準備室の北脇と。

【事務局】 明石と申します。よろしくお願いします。

【事務局】 よろしくお願いします。

【事務局】 あと、コミュニティ文化課に、今日は出席できていないんですけれど

も、武田と佐原という職員もおりまして、皆様のサポートをさせていただきたいと思
いますので、よろしくお願いいたします。

【事務局】 すいません、市民公募の委員さんが、本当はもう1人いるはずなんです
けれども、今、9月1日から、公募でもう1人募集中ということで、今日の委員会はこ
のメンバーでフルメンバーということに。

【事務局】 それでは次第の1番に進みまして、委員長、副委員長の互選を行いたい
と思います。

それでは最初に、委員長に推薦される方がいらっしゃる方、挙手で御推薦いただけた
らと思いますが、いかがでしょうか。

よろしくお願いいたします。

【森田委員】 田中委員に引き続き、委員長をお願いできればと思います。よろしく
お願いします。

【事務局】 ありがとうございます。

ただいま森田委員から、田中委員を委員長へと推薦がありました。

お諮りしたいと思いますが、委員長に田中委員を選出することに御異議ございません
でしょうか。

（「異議なし」と声あり）

【事務局】 ありがとうございます。それでは、田中委員を委員長とすることに決定
いたしました。

では委員長札を立てます。ありがとうございます。

それでは、田中委員から簡単に御挨拶をいただけたらと思います。

【田中委員長】 謹んでお受けさせていただきます。

私、これ、何年もやっていますよね。実は、そろそろかなといつも思っているところ
です。それもまたいろいろと、少ししてからで構いません、御検討いただければいいか
なと思っていますところ。微力ながら委員長として職務を遂行させていただきます。
どうぞ御協力お願いいたします。

【事務局】 それでは、これからの議事を田中委員長にお願いしたいと思います。

【田中委員長】 それでは、次に副委員長の互選を行います。

副委員長の役割は、委員長、私ですね、事故あるとき、または委員長が欠けたとき
は、副委員長がその職務を代理するということになります。副委員長に立候補される
方、また、併せて、どなたか推薦される方がいらっしゃいましたら挙手をお願いいたし
ます。

【森田委員】 邦永委員、推薦、お願いいたします。引き続きよろしくお願いいたし
ます。

【田中委員長】 ただいま、森田委員から邦永委員を推薦されました。

お諮りしたいと思います。副委員長に邦永委員を選出することに御異議ございません
でしょうか。

（「異議なし」と声あり）

【田中委員長】 ありがとうございます。それでは、邦永委員を副委員長とすること
に決定いたしました。

では、邦永委員から御挨拶をお願いします。

【邦永副委員長】 甚だ微力ではございますが、謹んで受けさせていただきます。よろしく願いいたします。

【田中委員長】 どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に進めさせていただきたいと思います。

2番、会議運営についてです。まずは事務局から御説明をお願いいたします。

【事務局】 事務局です。今後の会議の運営について、2点ございます。

1点目なのですが、今後の会議につきまして、本委員会の所掌事項は、次の3点を協議していただくこととなっております。

まず1点目が、協働施策の推進に関すること、2点目が協働事業提案制度に関すること、そして3が、その他協働に関すること、この3点の中でも、現時点では、協働事業提案制度について、主に提案、審査に御協力をいただいているところです。

また、今後の予定なのですが、市民協働支援センターのいよいよの開設や、その他の協働に関する事項について御協力、御協議いただくことを想定しておりますので、よろしく願いいたします。

次に、会議の傍聴等についてです。

本委員会は、原則傍聴を可能とする公開の会議としております。ただ、先ほど触れました、協働事業提案制度の選考等に係る会議を開催する場合は非公開とさせていただきます。この件についてあらかじめ委員会でお諮りいただきたいと思います。いかがでしょうか。よろしく願いいたします。

【田中委員長】 御説明ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、何か御質問、御意見等がありましたら、どうぞよろしくお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。協働事業提案制度の選考に関わる会議につきまして、非公開の取扱いとすることに御異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

【田中委員長】 どうもありがとうございます。それでは、選考に係る会議については、非公開の取扱いとすることに決定させていただきます。ありがとうございます。

続きまして、会議録につきまして、事務局から御説明をお願いいたします。

【事務局】 事務局です。

会議録についても2点ほどございます。

まず1点目、会議録の基本方針といたしまして、本委員会の会議録は、発言者名と発言内容全文を記載したものを作成させていただき、ホームページ等で公開させていただきたいと考えております。この点につきまして、委員会でお諮りいただきたいと思います。

また、会議録作成の流れでございますが、公開前に委員の皆様へ校正をお願いいたします。その後、公開・非公開とする箇所も含めて、委員長と事務局で協議の上、会議録の公開をしたいと、会議録を確定させていただきたいと思っております。この件につきましても、本委員会でお諮りいただきたいと思います。お願いいたします。

【田中委員長】 御説明ありがとうございました。

何か御質問、御意見等ございますでしょうか。

どうぞ。

【西田委員】 念のために確認なんですけれども、全文記録ということなんですが、そのほかの方法は何かありますか。従前、この委員会ではどういう方式を取ってきたか、説明願いたいと思います。

【事務局】 事務局です。

この委員会のみならず、市の附属機関においては、全文記録のほかには、要点のみを抽出したものの2種類が主な議事録として扱われております。

【事務局】 全文を、過去もほとんど全て、全文記録で公開をしています。

【西田委員】 ありがとうございます。

【田中委員長】 ほかにはいかがでしょう。

一点よろしいでしょうか、発言内容全文というのは、事務局にとって大変な作業だろうというふうに思うんです。その事情はよく分かるんですが、会議が終わりましたら、何て言いますか、記憶のあるうちに、なるべく早めに送っていただけるとありがたいなと、ずっとこれまでの経験から思うところなんです、大変なのはよく分かっています、全文なので。

【事務局】 かしこまりました。

【田中委員長】 よろしくをお願いします。

ほかにはいかがでしょうか。

それでは、お諮りさせていただきたいと思います。2点あります。

まず会議録につきましては、発言者名、皆さんのお名前と発言内容の全文を記載し、公開するということに御異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

【田中委員長】 ありがとうございます。それでは、異議がないようですので、発言者名と発言内容全文を記載して公開することにさせていただきます。

次に作成の流れですが、各委員の皆様に校正をお願いした後、委員長である私と事務局で、会議録の確定について御一任いただくことに御異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

【田中委員長】 よろしいでしょうか。どうもありがとうございます。異議がないようですので、このとおり決定させていただきます。どうもありがとうございます。ここまでは順調に進んでいますね。

続きまして、3番です。令和5年度小金井市市民協働支援センター準備室の活動状況について、進めさせていただきます。

それでは、まず、準備室から御報告お願いいたします。

【事務局】 ありがとうございます。

市民協働支援センター準備室の北脇より、活動報告について、状況について報告いたします。

準備室は、平成20年2月策定の小金井市協働推進基本方針に基づいて、市民活動団体と行政、また、市民活動団体間の協働に関して、御覧の7業務を行っております。これらの業務について、令和5年度分の1年間の報告をさせていただきます。

1 相談・コーディネート、こちらについてです。

相談内容としては、市民活動団体リストに関する相談、団体活動の運営や広報活動に関してのアドバイスなどの相談が、延べ365件ありました。主立ったものをトピックスに記載しております。こちらのほう、ざっくりとしか書いていないので、なかなか分からないと思いますので、少しだけ説明させていただきます。

こちらのほう、子ども食堂の立ち上げなど、立ち上げ間もない団体からの相談がありました。具体的には、子供たちへの情報を届けるためのチラシの作り方、見せ方、記載事項について、あとは、他団体の事例紹介や見学の仲介、そういったことを主にさせていただきました。

ほかには、市民活動の新規の立ち上げ相談、こちらに関しては毎月1団体ぐらい相談があります。こちらは、社会課題解決のために何かやってみたい、皆様のお役に立ちたい、そういった方が窓口を訪れます。そうは思いますが、何をやったらいいかわからない、あと、ほかにどんな団体さんがいるかわからない、そういった御相談をさせていただきます。なので、お話を聞いて、他団体の事例など、あと、小金井市の活動など、そういったものを御紹介しながら、お話の整理のお手伝いをしたりしています。

活動をこれから始める、もしくは初めて間もない団体さんは、大体の御質問が広報などの運営について、そういったことが多いです。こちらとしては、準備室として、市民掲示板の使い方や、公民館など活動場所の紹介、あとは、比較的取りやすい助成金などの紹介をして、お話をさせていただきます。窓口でこのようなお話をし、こちらの御紹介で、これならできる、まずは一歩動いてみようと思ってもらえるようなサポートを心

がけております。立ち上げ団体の支援を丁寧に行いますと、その後の団体様の活動がスムーズにいきまして、活動の展開の広がりや、次へとつながったりと、初期支援の重要性を実感いたします。

ちなみに、昨年度はLDに関する団体が、準備室の伴走支援の下に立ち上がりました。次のつながり、広がりにつながりまして、今後も支援者の担い手の広がりにつなげていければと考えております。

では次に進みます。情報の収集について。

資料の収集については、各市の協働支援センターの機関誌、各団体の広報紙などを集め、他市からの情報なども参考にさせていただきます。

また、他市などへの訪問もさせていただいております。他市訪問は、去年は3月に、府中市市民活動支援センタープラッツに伺いました。こちらのほうを少し紹介させていただきます。

府中のプラッツには、職員体制、団体登録、建物について、また、会議室の貸出し、併設のカフェ、ロッカーやコピーなどの貸出し時期について見学させていただきました。建物の中に入りますと、先の、奥まで見渡せる仕切りのない広いフロアで、大きな窓から光が差し込む、とても明るい空間でした。

奥には受付・事務スペースがあり、手前には飲食可能の交流スペースがありまして、机と椅子がたくさんあります。こちらは予約なしで自由に活用することができ、隣のチラシ棚より最新の情報をもらうという、団体の紹介と団体の打合せができるような、自然な循環というか、情報交換ができるようなふうに工夫されていました。テーブルの隣

同士の間隔も意外と近くて、ほかの団体のお話が聞こえるような、あそこの団体ではこんな話をしている、ここの団体ではこんな話をしていると、わざとほかのグループの話が聞こえるような形に設定しておりまして、それも後から伺ったんですが、市民活動が、団体同士が自然に交流できるように工夫されているということでした。

この建物のコンセプトは、コンセプトづくりに4年もかけておりまして、立ち上がりるときにはドイツに視察も行ったぐらい、かなり力を入れて建物の構造を考えているということでした。小金井市には、ここまでまねできるものではないんですが、ただ、壁を作らず明るさを確保するとか、NPO活性化のために距離を狭めるとか、まねできることもありましたので、こういったことも大事だと感じました。

次に、会議室の貸出しのほうになります。貸出しの部屋は10部屋ありまして、その部屋に和室、料理室、ホールなどもありました。料金のほうは、小金井市と違ってかかります。3段階の料金の設定がされておりまして、市内と市外、あとは、市外と同料金の市内営業、それから市外営業の3つに分かれていました。市内を基準に、市外の方は市内の方の2倍、市外営業の方は市内の方の3倍と、かなり大きな差をつけていて、小金井市のゼロ円文化というか、無料のところから比べると、かなり高いなという印象を受けました。お部屋の大きさもありますが、大体最低は1,000円から始まって、最高が4,500円ぐらいまでで、午前と午後でという形になっております。

予約のほうは1年前からできるようになっておりまして、1年前からできるので、市外の営業で埋まることがとても多いそうです。今回もドラマの撮影の予約が入っていたりですとかして、課題としては、市内の団体さんがイベントを企画してやろうと思うの

が、大体3か月前、もしくは半年前なんですね。そのときには、もう1年前に予約が入っているので、どんなに高くても、ほかから見ると、やはりちょっと安めに感じるんですね。なので、そういった予約で取られてしまっていて、市内の団体さんに、予約を入れたいときに入れられないという課題というか、ジレンマというか、そういったことがあるとのお話でした。

こちら、とても広い施設なので、カフェも併設されております。こちらはとてもこだわりのあるカフェでして、市の姉妹都市から無農薬の野菜を仕入れて入れたりとか、あと、アルコールを提供していたりとか、こだわりのあるところでした。なんですが、こちらはとても館内の収入に大きく影響しているということで、貢献をしているところで、これを入れてよかったというお話を伺っています。

ただ単に飲食スペースとして使っているだけではなくて、貸し切って市民活動団体の懇親会に使ったりとか、あとは、仕事帰り後のビールを交えた交流会、サラリーマンの方の憩いの場で、ビール片手にお話をしながら、市民活動、あとは社会課題のお話などにつながったりとか、そこから団体が立ち上がったりとか、そういったこともあるようです。あとはケータリングとかで会議室に運んだりとか、そういったことをされていて、市民活動と食、これに対して、何だろう、活動のつながりに、とても大きな役割を担っているということでした。

あとは、ロッカーですとか什器備品とかも、とても充実しておりまして、意外だったのが、ロッカーの大きなところから予約が埋まっていて、小さなところが余ってしまっているそうなんです。府中は3段階の大きさのロッカーがあって、それも5,000円以

下で借りられて、年間それなりにお金がかかると思います。なんですが、そこから埋まっていくというのは小金井にはない感覚だったので、意外に感じました。

あとは、団体登録、現在450団体が登録中ということです。小金井の市民活動団体リストが今、350ぐらいから見ると、やはり市の規模も大きいので、こちらは大きいんです。小金井は紙ベースで団体登録リストを作っているんですが、こちらはネットで作っています。特徴としては、団体さんが独自で更新とか、報告とか、あと、イベント情報を載せたりしています。

事務局が全てやって、代わりに入力していくものではなくて、登録して、一定の条件をクリアしている団体さんが御自身で更新していくので、これはやはり、自団体の情報を載せることによって活動意識を高めたりとか、振り返りの機会になったりとか、あとは、初めて活動してみたいとか、ボランティアをしてみたいという方にとっては、このサイトを見れば、そこで全て完結しているというものになりますので、ICTを取り入れていくと、手間と費用はとても大変なものだと思います。自団体でそれぞれでログインして、入力をしてもらうので、ルールづくりも大変だと思います。ただ、長い目で見ると、こちらが今後必要になっていて、小金井のように紙ベースというのも、いつまで続くのかなというふうに個人的には感じました。多くの面で小金井とは全く違う、府中の参考事例にはなりますが、まねできるところはまねして、今後の参考に生かしていきたいと感じるようなところでした。

府中の話終わりました、また元に戻ります。

次は市内、訪問活動、こちらになりまして、去年度は7件になります。発達にアンバ

ランスのある子どもの親の会 ひまわりママさんや、緑中放課後カフェとか、あとは、小金井の教室内の支援をされているにじいろさんなど、幾つかの団体、気になるところの定例会ですとか、そういったところに参加させていただきまして、その団体の課題とか今後のお話を伺いました。

次、情報の発信です。

こちらは「ぼらんていあこがねい」に準備室専用のページを作っておりまして、毎月PRさせていただいております。準備室の紹介、団体のイベントや講座の情報、助成金情報などを掲載しております。ブログの閲覧数は御覧のとおりになっております。

次に、協働の推進について。

電話やメール、もしくは直接顔を合わせながら、コミュニティ文化課と打合せを行い、情報共有を行っております。情報共有を行いながら協働の推進に努めております。また、NPO連絡会、福祉NPO連絡会、推進委員会へも参加しております。

次に移りまして、市民活動団体のリストの管理に関しましては、令和5年7月1日に更新版を作り、ウェブのほうに載せてあります。去年度は9件の団体の更新情報が反映されております。

最後に行政の協力、こちらは令和5年度協働提案事業の広報団体への事前の相談や、実施団体の打合せ等に参加しております。また、NPO法人派遣研修なども、コロナ禍でお休みしておりましたが、それも去年度から始まりましたので、こちらの協力のお手伝いもさせていただいております。

準備室からは以上になります。

【田中委員長】 御報告どうもありがとうございました。

委員の皆様、御質問等ありましたら、どうぞよろしく願いいたします。府中市の状況について、詳しく御説明いただきました。

【森田委員】 はい。

【田中委員長】 どうぞ、お願いいたします。

【森田委員】 2 番目の主な相談のところなんですが、最初に相談にいらして、その後のつながりですとか、例えばうまくいった点とか、やっぱり諦めました等々の、その理由等が知ることができたらなと思ったんですが、いかがでしょう。

【事務局】 市民活動に入って間もない団体さんが窓口で相談に来られて、いろんなことを不安に思っている方は何度も相談に来られるんです。お電話だったりメールだったりとか、何度も来られます。そのときには、どうでしたかというふうに必ず聞くようにしております。もちろんそのときに、この団体さんをつないであげたら参考になっていいかもしれないとか、そういうことが思いつきましたらつなぐようにしていますが、ただ、あまり相談されない方もいらっしゃいます。

その団体さんには電話して聞くとか、そういったことはあえてしないようにしています。やはりその方たちのペースみたいなものがありますので、あまりその後の連絡を取ってしまうと、むしろ負担に感じてしまったり、活動する気持ちが落ち着いてしまったりする方もいらっしゃいますので、そちらは相手の方を見ながら、聞けるときには聞いて、つなげるときには聞いて、聞かないときも、聞かないほうがいいときもあると感じた場合は、あえて連絡を取らず、また何かのタイミングでお会いしたときにちょっと

聞いてみるとか、そのように、その相手に合わせて対応を変えております。

【森田委員】 ありがとうございます。

【田中委員長】 よろしいでしょうか。

ほかにはいかがでしょう。

【高山委員】 いいですか。今、よく聞き聞き取れていないのかもしれないですけども、団体にとっての不安というような言い方をされたかと思うんですけども、これは具体的にどんなものが不安として出てくるんですか。

【事務局】 私が個人的に感じるものなのですが、やはり団体の発起人というか、リーダーさんが、こういうことをやりたい、もしくはやったらいいなということが、ある程度幾つかリストアップされているんですが、それをメンバーの方と共有されていない。話しているときに、それもいいね、あれもやりたい、それいいねって話が盛り上がるんです。なんです、御自身の団体に持ち帰ったときに、それが伝えられない、もしくは出てこない、ほかの方の賛同を得られないというときに不安に変わるようなので、やはり何度か通っていただいて、自分の言葉で語れるように、気持ちをちょっと固めていただく、もしくは何人かでお話する機会を、あえてつくってもらおうということをしております。

なので、窓口でお話しするのは、私とお話するのではなくて、皆さんと、一緒にやる仲間とお話してくださいということをお話ししています。そこがうまくいく方が、あまり不安に思わずに、その団体の中で楽しんで、次のステップに進められる方が多いように感じられます。

【高山委員】 ありがとうございます。

あともう一ついいですか。そのレベルがもう一つ、ステップ上がった段階かなとは思いますが、助成金の紹介の話がありましたけれども、助成金の紹介をするときに、どの程度までお付き合いをするんですか。要は、助成金の申請って、今のチーム内でどう共有するのと同じように、いかに市民の人だとか、仲間に分かってもらうかということがすごく大切な部分だと思うんです。それがないと、私も申請幾つもやっていますから、大体そういうのは、やっぱりそういうところがないと、魅力を感じる活動とならないと思いますが、その辺のところまで、結構一緒になってアドバイスをするのか、単に今の時期、こういうのを、助成金が出ていますよという案内でとどまるのか、その辺のところ、度合いというか、教えていただければと。

【事務局】 助成金に関しては、助成金情報を教えてくださいという方はほとんどいらっしゃらなくて、そういうふうにいらっしゃる方は、もう長く活動されていて、それこそ10年とかされている団体さんが多いです。活動始めて二、三年で、御自身のほうで、費用がないからできないなとか、次の壁にぶつかった団体さんが、ぽろっとこぼしたときに、それならこういう助成金ありますよというふうに言うようにしています。

そのときに、必ず3つ紹介するようにしてまして、それが、市内で取りやすい助成金になります。小金井市ですとか、社協ですとか、公民館が関わっていたりとか、どこ、小金井市内の市民活動団体さんが取りやすいものを、あえて御紹介するようにしています。なので、助成金の種類で、簡単なものと難しいものというか、外部のものと内部のものみたいなイメージがありまして、内部のほうをまずは紹介するようにしていま

す。内部のものなんで、とても簡単というか、ぜひ皆さんで頭を悩ませて書いていただきたい内容なんです。なので、ほかの団体さんでこれを出して、こういう審査で通った方がいらっしゃいましたよという紹介はするようにしています。その紹介をすると、それなら僕たちでも取れるねというふうにイメージが湧くんです。

その紹介をしまして、あとは書類のほうを、ここで書類が取れますよ、ダウンロードできますよというお話をしまして、御自身の団体で書いていただいて、もしよろしければ、見せていただければ、そちらのほうのアドバイスだとか、お話も伺うことができますということで、一度帰っていただくようにしています。なので、最初は御自身でやっていて、それでちょっと行き詰まったりしたときに、こちらに持ってきてもらうという形ですね。これで回答になっていますでしょうか。

【高山委員】 はい。ありがとうございます。

【事務局】 よろしくをお願いします。

【田中委員長】 よろしいでしょうか。

【高山委員】 はい。

【田中委員長】 ほかにはいかがでしょうか。

府中市の事例について詳しく教えていただきまして、どうもありがとうございます。実際に訪問されて、ぜひ小金井市でも、ここが取り上げたいなとか、ぜひやってみたいなとかというところがありましたら、教えていただけるとありがたいのですが。

【事務局】 実はありました。できるかどうかは別なんですけど、先ほど、インターネット上の活動団体のオンラインシステムがあるというお話をさせていただいたんです。

が、そこに自団体で、今年度の報告と来年度の課題を団体さんが書いた後に、プラッツの職員さんと面談して、1年間の更新完了という手続を取っているそうなんです。そのシステムがとてもいいシステムだなと思ひまして、先ほども言ったんですが、団体さんがフォームに書き込むことによって、自分たちの団体を客観的に、相手に分かるようにまとめる時間があったりとか、あと、来年の課題を書くことによって、また意欲を起こし直すというか、意欲的になれる機会もあり、それでいて、それをまとめたものを職員の方が見る機会があって、そこでお話もできるので、情報交換とか、今この団体さん、何やっているのかなという、1年に1回分かるタイミングが、それがとてもいいなと思ひました。

今、小金井では、団体リストを二、三年に1回更新しているんですが、メール上、手紙上だけのやり取りで終わってしまう団体さんもいらっしゃるんですね。とても残念に思ひていて、そこでちょっとお話しして更新をしたいなと思ひんですが、やはり限界があります。事務局がやることも多いので、事務局でやることを団体さんが一部担ってくれて、その空いた時間で面談ができる、面接ができるというのは理想的じゃないかなと思ひましたので、費用もかかるものだと思うんですが、そのうち小金井も取り入れていただけたらなと思ひました。

【田中委員長】 ありがとうございます。NPO関係の方、いかがでしょう、今のよ
うなシステムというのは。

【邦永副委員長】 小金井でやっている団体登録の紹介は、毎年同じことを書いて
るのを、もう一度焼き直しているような、そういうのもあって、あまり魅力的なものに

はなっていないと、つい思っていて、それを自団体のほうで手を入れながらというのを、自団体のほうでというのは、今、北脇さんのお話にあった、面談込みだったら頑張れそうな気がするんですけども、自分の団体も、ホームページはあるわ、いろいろあるわ、結構その作業が大変なので、年に1回必ず、何か収穫できるような面談があるなら頑張りますという感じですかね。

【事務局】 そちらのほうには自団体の紹介を書くんですが、イベント情報を載せたり、ボランティア情報を載せたりとかができるんですね。となると、自団体の方はもちろん仕事が増えてしまうというか、手間が一つあるんですが、ただ、新しく市民活動したい、ボランティアしたいという人が、そこを見れば全て完結するような内容になっている、そこも魅力だと思ったんです。なので、事務の手間を減らすだけではなくて、減った分だけ、その分、団体の方の近況を聞いたりとか、そういう次につなげる、ほかとつなげるとか、そういった時間に充てれば、充てることができるといいなと思いました。

【田中委員長】 森田委員、いかがでしょうか。何か御意見ありますか。

【森田委員】 やらなくていい仕事は減らないのに、やんなきゃいけない仕事がいっぱい増えて、新たなシステムが導入されると、またさらにという状況の中、そんなこと思ったりしてしまいます。いけませんね、目の前のことで精いっぱい、駄目だなと思って。

【邦永副委員長】 今のお話を伺っていて、ボランティアをやりたいと言った人の中に、学生とつながるようなツールは、ボラセンというか、市民協働センター、あります

か。

【事務局】 最近、学芸大にインキュベーションセンターができたので、実は学生の相談が多いです。ただ、ボランティアではなくて、自分たちが団体を興したので活動の場を広げたいという、そちらになるので、やはりボランティアとなると、もうちょっとつながりが必要かなとは思っております。

【邦永副委員長】 学生の中において、ボランティアセンターというのを知らない。

【森田委員】 直で来るね、大学の子たちは。

【邦永副委員長】 社会福祉協議会知らないという、結構あるんですよね。

【邦永副委員長】 私のところに来た学生が「自分が教えてあげました」と言っていたから、多分言っているなと思うんですけども、知らないんですね。大学にはそういう窓口ってあるんですか。

【田中委員長】 うちにはボランティアセンターありますよ。

【邦永副委員長】 センターありますよね。そこと地域のボラセン、つながるというもの。

【田中委員長】 でも、あまりつながっていないかもしれないですね。

【田中委員長】 学芸大学でいくと、教育学部ということもあって、学校へ出かけていって、いろいろ子供たちを支援する、あるいは大学で子供たちと一緒に遊ぶような、そういったサークルとかはすごく多いんですよ。どうしてもそういうところが、ひょっとすると中心になっていることはあるかもしれませんね。

【邦永副委員長】 今、地域の中で、放課後の居場所づくりも広がっているし、子供

さんの中には発達の特徴があったりとかして、すごくボランティアを募集しているんだけど、多分そこがうまくマッチングされてないなというふうに感じているところがあるので、そういうところが広がるといいなと、お話から思いました。

【森田委員】 でも、大学生見ていると、言いながら、どっかを仲介せずに、もう話しているその横で、スマホでこういうふうにしなから「見つかりました」って、速いんですね。ネットワークがだだっと来て、すぐに回答する、その怖さもある反面、慣れているので、あと、間に何か入ったら、また新たな広がりもあるということも知ってほしいというのと同時に、それを待ってられないような、何せ、何でも倍速で見る人たちですから、物すごく、そのつながり方は速いなとは思っていますね。

【西田委員】 やや危なっかしいですかね。

【森田委員】 見ててね。でもこの間、面白いことを言っていました。今のうちに学生という付加価値を、使えるだけ使っておきたいと言ったんですよね。

【森田委員】 すごいなと、本当に。

【西田委員】 誤った情報もたくさん流れているので、その選別が難しいですよ。誤っただけならいいんだけど、悪意を持ってだます情報も流れているんで、市役所の消費生活とか、そういうの、消費者教育というのはちょっと、言い方は悪いんですけど、消費者の方にも、学生も含めて、その部分の情報をいかに取り扱うかというのを、ちょっとそれるんですけども、主な目的として研究をしているんですけども、なかなか大変だということで、中学校の先生とか、交ざってもらってやっているんですけども、本当に書いてあることが素直に受け取られていると、善意の人ばかりじゃ

ないんで、そういうことで引っかかっちゃう人も一定数いるんで、そこがちょっと、情報を流すのはいいんだけど、選別するということも、どうやって教えたらいいかなということ悩んでいますね。

【田中委員長】 ほかにはいかがでしょう。よろしいでしょうか。

それでは、また今後の活動、どうぞよろしくお願いしたいというふうに思います。

それでは、続きまして、4番目へ行かせていただきます。令和5年度及び令和6年度実施の協働事業提案制度の進捗状況についてです。

まずは事務局から御説明をお願いいたします。

【事務局】 事務局です。

まずは令和5年度実施の協働事業提案制度について御報告いたします。

資料2番になります。

令和5年度から、市民提案型と、新設の行政提案型の2つの、2種類の事業を実施いたしました。市民提案型が1件、行政提案型1件について、令和5年9月に採択していただいたところですが、採択事業について御報告いたします。

まず初めに市民提案型のほう、多文化共生に向けて、外国の子供の教育支援についてです。こちらは小金井国際支援協会K I S S Aさんの提案事業となりまして、学務課と児童青少年課とコミュニティ文化課の3課が担当課となり、学校ガイドの作成、シンポジウム開催に係る内容となっております。成果物として作成していただいた学校ガイドを回覧いたします。

続きまして、行政提案型協働事業につきましては、「小金井魅力発見！市歌『光さす

野辺』みんなで作ろう ミュージックビデオ」についてです。

お配りしている青いチラシを御覧ください。

こちらは、はけの手アニメーションさんの提案事業となりまして、企画政策課が担当課、市民参加型のアニメーションミュージックビデオ作成や、作成に係るワークショップ開催などを協働事業として実施いたしました。ミュージックビデオの素材として、塗り絵ワークショップを開催しておりまして、300点以上の塗り絵の素材を集めております。その素材を使ってミュージックビデオを撮影し、完成披露上映会を実施しております。

また、この後、できたビデオについては、小金井市の公式YouTubeで配信予定でございます。今、最後の仕上げを、やはり皆さん、最後にいっぱい手を加えて、よいものにしたいという御意向ありまして、手を加えていただいているところです。

以上が令和5年度実施の協働事業提案制度の報告となります。

続きまして、令和6年度の実施協働事業提案制度の進捗状況についてになりますが、こちらは資料の3を御覧ください。

令和6年度実施分につきましては、7事業の提案をいただき、1次審査においては5事業通過、5事業のうち、2次審査を経て2つの事業が採択されました。

市民提案型協働事業においては、小金井平和の日・市民イベント実行委員会における、小金井平和の日制定10周年記念、こがねいデジタル平和資料館の設立が採択となっております。こがねいデジタル平和資料館はインターネット上に設立し、平和に関する様々なコンテンツを掲載していくという内容になります。提案事業の中では、市内

に在住の戦争体験者の方の、インタビュー動画作成を中心に実施していただくところになります。

続きまして、行政提案型事業におきましては、劇団芝居屋樂屋さんにおける「小金井魂炸裂！！俺たちの人生の舞台はここだ！」が採択となりました。

資料の4を御覧ください。

こちらのチラシもあるようですね。芝居屋樂屋さん、資料のほうはこちらです。市民の方と芝居屋樂屋さんが中心となって、小金井市の都市計画マスタープランの内容を分かりやすく、お芝居といいますか、演劇で伝えてくれるお芝居が生まれたということで、マロンホールにて秋に上映予定となっております。皆さんで練習を重ねて、プロの俳優の方が指導してくださるという内容となっております。マロンホールで11月の9日、10日上演予定ということですので、御参加いただけたらと思っております。

現在、24名の市民の方から応募があったということを、担当課から聞いております。こちらの担当課は都市計画課になります。

また、当初、どちらの提案事業も2か年で提案されてきた内容でございますが、こちらにつきましては、継続性、発展性という視点から、条件付採択といたしまして、結果として1年の提案事業として実施していただいております。

なお、お手元にお配りしている資料の5になりますけれども、こちらは平和の日さんから、市の見解に対して、2か年を希望していたが、1年間ということになったことについて、ちょっと納得いかない部分があるということで、委員の皆さんにお伝えしたいということで、見解の資料を頂いたものになりますので、参考に御覧いただけたらと

思っております。

令和6年度の事業の進捗状況は以上となります。

【田中委員長】 御説明ありがとうございました。

令和5年度、令和6年度の小金井市の協働事業提案制度について、進捗状況を御説明いただきました。委員の皆様、御質問等ありましたら、よろしくお願いいたします。

どうぞお願いします。

【森田委員】 令和6年度の資料5、共に2か年が1年ということで、審査のときはそれも含めての審査になっただろうと思うので、例えばそれが1年になったことの、メールで年度末になりましたということだったんですが、そのときに、もう一度そのことについて、何か話し合う場が設けられたらよかったのではないかなと思いました。

以上です。

【田中委員長】 ただいまの点、いかがでしょうか。

【事務局】 事務局です。

皆さんに審査をしていただきまして、委員からの意見ということで、参考意見ということで、庁内の各委員からできている選考委員に意見を挙げていただきました。内容としては特に、市内に在住の戦争体験者の方がかなり御高齢で、今インタビューしないと、この後インタビューする機会を永遠に失われてしまうといったところが、非常に評価が高かった点で、そこについては、ぜひそこを中心に、事業を進めていただきたいということはお伝えした上で、もう一つの、市内にある、特に学芸大学等の聖跡地といえますか、についての資料を集めたいといった御意見につきましては、実は委員の方が

ら、皆さんからいただいた意見の中にも、まとめて1年で、ぎゅっとできるかなという
ような御意見もいただいていたところですよ。

それらを踏まえまして、1年間で、特にインタビューのほうをぜひ中心にやってもら
いたいなといったことが、選考委員会の決定事項となりましたので、その点について
は、これが市の決定ですという形で、団体さんとは協議させていただいた次第です。

やはり団体の方、2年間でやりたいという強い御意向は、最初お持ちでしたので、推
進の委員の方ともそこは、例えばもう一回審査やり直せないものだろうかとか、そう
いったやり取りはいろいろさせていただいたところではございますが、それを受けまし
て、我々も2か年の事業を新規事業として、これまでずっと1年間の事業だけでしたけ
れども、ここで改めて2か年事業にしたところで、今後の事業の継続というのに寄与す
るんじゃないかというような、もともとの意図があって、事業を2か年に延ばして募集
をしてみたところなんですけど、2か年の事業を認めることの基準について、こちらのほ
うも団体さんに、はっきりとした基準をお示しできていない状況で募集をかけたといっ
たような反省点もありますので、今後については、特に継続性というものは、どのよう
に市は判断しているのか、発展性とはこういった内容が欲しいのだといったことを、
はっきりと募集要項に明記しての募集に挑みたいなというふうには考えております。

今後、次年度の選考がこれから始まる場所なんですけれども、選考の基準ですとか
採点の内容につきましても、少し反省を踏まえて整理をさせていただいた上で、次の選
考には挑みたいと思いますので、それについては皆さんにまた、選考のときの配点等
についても、整理させたものをお示しさせていただけたらというふうに思っているところ

ろです。

以上です。

【田中委員長】 どうもありがとうございました。

ただいまの御説明について、森田委員、何かありますか。

【森田委員】 もう一件、あと、こっちの資料5のところに、市が提供できる、市の理由として「資料が乏しく」とあったんですが、例えば提出の前に相談の場が、時間が設けられていますよね。そのときにこういったことがあらかじめあったのだろうか、いや、それとも通ってからこのようなことが出てきたのか。だとしたら、やっぱりその前の、提出前の段階で、こういったことが話し合われていたらよかったのではないかなというふうに思いました。

【事務局】 事務局です。

提案の前に、それこそ準備室の方も含めて、あとは担当課であった、あと、担当課として志望されていた生涯学習課文化財系のメンバーも含めて、複数回打合せを持っておりまして、それぞれ提案制度を御提案いただいたときに、担当課の部署からも、どのように協働できそうかとか、市の役割としてどのようなものができそうかといったことについて、意見を行っているところです。

今回の陸軍技術研究所に係る資料については、現在、市として公表できるもの等が特に、既にあるものしかない、新規のものはないといった御意見もいただいておりますので、そういう状況で、果たして協働事業としてやっていけるのかどうかといったところについては、双方の、それぞれの理解の差もあったのかなというふうには思っている

ところです。最初に、事前に打合せはしてはおりますので、そのところをもっときちんと、納得いただくまで従前に行く必要があったのかなとは思っているところになります。

以上です。

【田中委員長】 よろしいでしょうか。

【森田委員】 はい。ありがとうございます。

【田中委員長】 ただいま、資料の5を拝見させていただきますと、一番冒頭のところに「つきましては、これからの1年間の協働事業の実施と成果を踏まえて、改めて下記の今回の見解について、市の考えを文書でお示しいただきたいと思います」と書いてありますが、市のほうでは何か文書で回答といいますか、文書をお示しされたんでしょうか。それも、これからなさる予定でしょうか。

【事務局】 事務局になります。

平和の日さんと協定書の締結をする前に、コミュニティ文化課とかなり長時間協議はさせていただいておりまして、一回、先ほどお伝えした、2か年で御提案いただいた事業について、なぜ市としては1年間での実施を望むのかについては、文書で既に回答させていただいております。それがあっての上の、さらに1年間やった後に、市としてどのように考えるかを文書で欲しいという御要望ですが、こちらについては、文書で出すかどうかについては、検討と考えているところです。

以上です。

【田中委員長】 ほかには、委員の皆様、いかがでしょう。

それでは、もしないようでしたら、次の５番のほう、行かせていただいてもよろしい
でしょうか。５番は「協働事業提案制度について」、今度の、少し制度を変えるという
お話です。

まず、事務局から御説明をお願いしたいと思います。

ここから、協働事業提案制度の内容にかかるため非公開

—— 了 ——